

# 株式会社ワークマン

## 2022年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2021年11月9日

## ご説明内容



●2022年3月期第2四半期決算の業績

●2022年3月期第2四半期決算の概要8

● 2022年3月期 計画 18

# ご説明内容



●2022年3月期 第2四半期決算の業績

## 損益計算書 (累計期間)



(単位:百万円)	2021/3期 <b>2Q</b>	2022/3期 <b>2Q</b>	前年 同期比	2022/3期 2Q計画	計画比
チェーン全店売上高	68,288	73,756	+8.0	74,792	△1.4
直営店売上高	3,980	4,487	+12.7	4,420	+1.5
加盟店売上高	64,308	69,269	+7.7	70,372	△1.6
(既存店売上高)	_	-	+1.7	+3.3	△1.6
営業総収入	48,713	55,295	+13.5	53,732	+2.9
売上原価	29,073	33,065	+13.7	31,488	+5.0
販管費	8,565	9,624	+12.4	9,819	△2.0
営業利益	11,073	12,604	+13.8	12,425	+1.4
経常利益	11,782	12,891	+9.4	12,697	+1.5
四半期純利益	7,372	7,999	+8.5	7,926	+0.9
EPS	90円33銭	98円02銭		97円13銭	

<sup>※22/3</sup>期1Qより収益認識に関する会計基準を適用しております。21/3期2Qについては当該会計基準を遡及しておらず、前年同期比についても組替前の数値で比較しております。

#### > 業績ハイライト

#### ● チェーン全店売上高 計画比 98.6%

- ・期を通じて概ね計画通りに進行したが、9月下旬の気温上昇により計画を下回る。
- ・新規顧客の増加が緩やかとなり、気候等の外的要因が業績影響 に顕著となる。

#### ●営業総収入 加盟店供給売上高の伸長

季節商品の供給が進んだことが要因であり、加盟店売上+7.7%に対して、供給売上+13.7%と大幅に伸長。

#### ●売上原価

シーズンPB商品評価替え 1億52百万円計 L

#### ●販管費

- ・DC増築のイニシャルコストで約1億10百万円計上。
- ・物流コストは高水準だが、抑制傾向が強まる。
- ・新店・S&B (前期比+5店舗)、WMプラス改装(+10店舗)の増加。

#### ●営業利益

為替や海上輸送コストの上昇など、海外取引は厳しい状況で推移 したが、PB商品の加盟店供給高が伸長したことで利益貢献で着地。

- ・海外仕入に係る利益額 44億64百万円 (+8.5%)
- ・海外直接仕入高 前年同期比△0.9%
- ・平均決済レート106.98円(前期105.8円)

## 収益認識に関する会計基準の適用に伴う影響額(P/L)



(単位:百万円)	22/3期2Q <b>組替前</b>	22/3期2Q <b>組替後</b>	影響額
チェーン全店売上高	73,761	73,756	△4
営業総収入	54,648	55,295	+646
売上原価	33,231	33,065	<b>△165</b>
販管費	9,179	9,624	+445
営業利益	12,237	12,604	+367
経常利益	12,942	12,891	△50
四半期純利益	8,030	7,999	△31

#### > 組替による主な影響

#### ●利益

- ①加盟金を一括計上から契約期間配分へ変更する影響額 ⇒営業利益 △**21**百万円
- ②仕入割り戻し計算の過程で生じる影響額 ⇒営業利益 △30百万円
- ③営業外収入の組替による影響額
  ⇒営業利益 +418百万円

上記により、営業利益インパクトは+367百万円 ※①・②については経常利益以下にも影響

#### ●販管費

- ・FC店コスト 収入科目から組替 +2,427百万円
- ・加盟店顕彰金 収入科目へ組替 △170百万円
- ・DC業務受託関連 収入科目から組替 △1,802百万円

その他、少額の組替があり、合計 +445百万円影響

## 収益認識に関する会計基準の適用に伴う影響額(販管費)



(単位:百万円)	21/3期 2Q <b>組替前(a)</b>	22/3期 2Q <b>組替前(b)</b>	前年同期比(%) b/a	22/3期 2Q <b>組替後(c)</b>	影響額 c -b
人件費	1,618	1,753	+8.3	1,753	-
販売費	557	412	△25.9	480	+67
旅費交通費	117	137	+17.2	137	-
運賃	1,349	1,450	+7.5	735	<b>△715</b>
地代家賃	988	1,066	+7.9	2,927	+1,861
消耗品費	412	471	+14.3	380	△91
業務委託料	1,731	1,840	+6.3	1,233	△607
減価償却費	756	928	+22.8	928	_
その他	1,035	1,118	+8.4	1,048	△69
合計	8,565	9,179	+7.2	9,624	+445

## 貸借対照表



(単位:百万円)	2021/3期 <b>2Q末</b>	2021/3 <b>期末</b>	2022/3期 <b>2Q末</b>	増減
流動資産	75,283	85,696	86,411	715
現金及び預金	43,562	57,813	56,617	<b>△1,195</b>
加盟店貸勘定	13,014	11,884	13,152	1,268
商品	17,312	14,077	14,772	695
固定資産	24,401	27,179	29,782	2,602
有形固定資産	17,664	20,101	22,726	2,624
無形固定資産	587	769	706	△ <b>63</b>
その他投資	6,150	6,307	6,349	41
資産合計	99,684	112,876	116,194	3,317
流動負債	15,964	19,090	19,800	710
固定負債	3,137	3,191	3,646	454
負債合計	19,101	22,282	23,447	1,165
純資産合計	80,582	90,593	92,746	2,152
負債純資産合計	99,684	112,876	116,194	3,317

#### > 増減要因

#### ●現金及び預金

営業C/F 63億73百万円 投資C/F △22億86百万円 財務C/F △52億82百万円

#### ●加盟店貸勘定の増加

- ・対象店舗数の増加829店舗(前期末+20店舗)
- ・在庫増加…1店舗当り春夏商品キャリー 約1百万円増加

#### ●商品(増減要因)

- ・直営・SC店 +81百万円
- ・物流センター △7億62百万円
- · 未着品 +13億54百万円

在庫コントロールの強化で物流センター在庫が大幅減少。 秋冬商戦に向けて海外未着品の増加。

#### ●有形固定資産の増加

- ・DC増築 取得総額29億33百万円(うち前期取得4億21百万円)
- ・新規出店20店舗・S&B3店舗(うち自社物件19店舗)
- ・ワークマンプラス改装(全面2店舗・部分37店舗)

# ご説明内容



●2022年3月期 第2四半期 決算の概要

## 出店状況



### ●新規出店・改装は期初計画通りに進行

## 2021年9月末 924店舗(前期末比+18店舗)

(以(), (古**) 前期末		新規出店				改装転換※2				21.9末
(単位:店数)	店舗数		ロード サイド	SC*3	<b>S&amp;B</b> *3		全面 改装	部分 改装	閉店	店舗数
WORKMAN	632	(∆3)	_	_	(△3)	(∆39)	(△2)	(△37)	△2	588
WORKMAN Plus +	272	18	15	_	3	<b>39</b> (-)	2 (-)	37 (-)	_	329
#ワークマン女子 WORKMAN GIRL	2	5	2	3	_	_	_	_	_	7
合計※1	906	23	17	3	3	39	2	37	△2	924

<sup>※1.</sup>合計欄は実施店数を記載しており()表示は合計算出から除外しております。

<sup>※2.</sup>改装はワークマンからワークマンプラスへの転換となります。

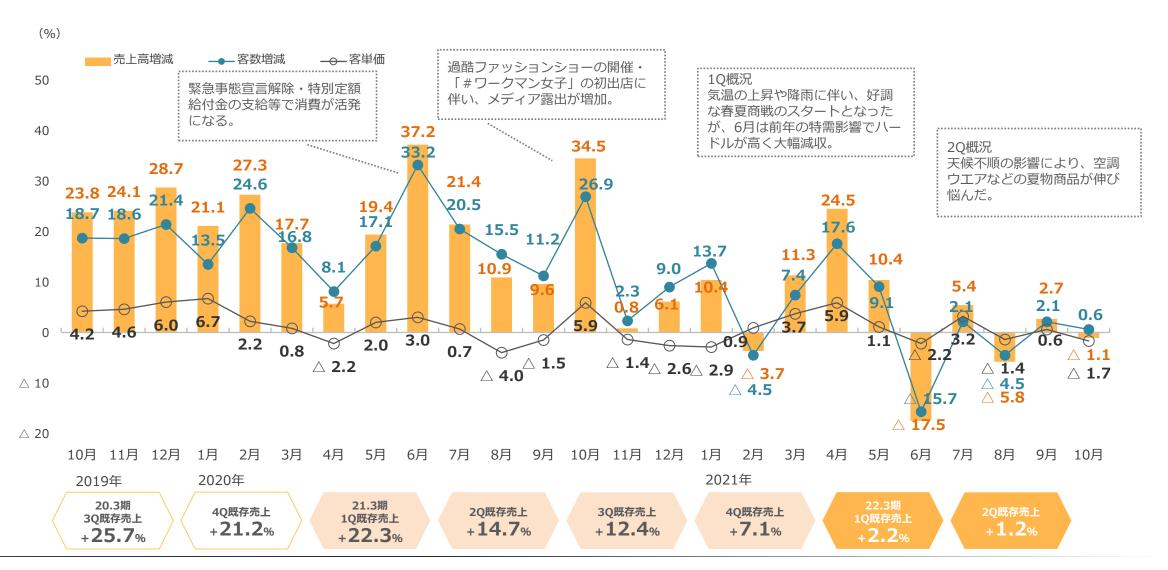
下段は過去にワークマンプラス改装を実施した店舗が、当期にS&Bを行った店舗数を表示しております。

<sup>※3.</sup>SC:ショッピングセンター S&B:スクラップ&ビルド

## 月次推移と要因



### ●既存店売上・客数・客単価増減

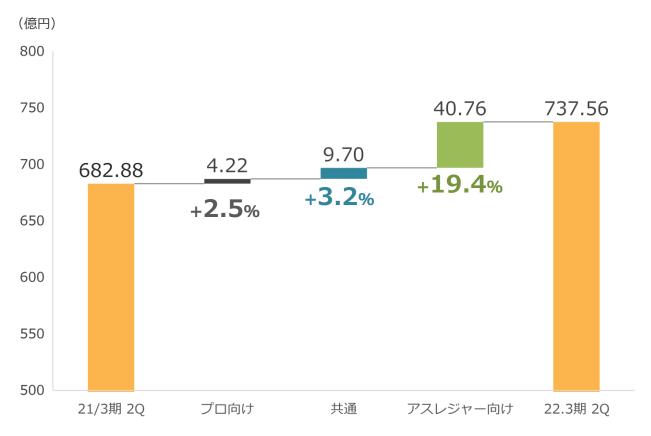


## 商材別売上の状況



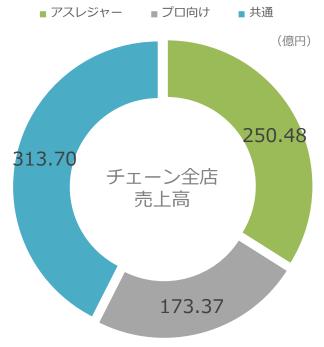
## ●アスレジャー向け P B ブランドが成長を牽引(客層拡大)

●2022/3期 2Qチェーン全店売上増減要因



※商材別の売上高で算出しており、顧客分析結果ではございません。

#### ●2022/3期 2Q商材別売上高



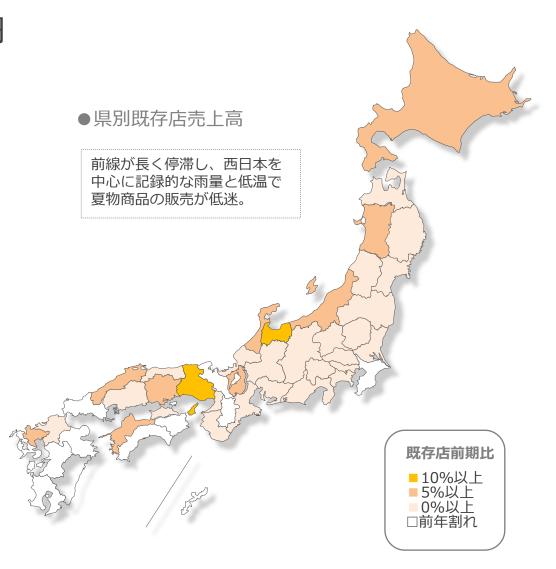
01.プロ向け…法人企業向け作業服・足袋・安全靴など、一般消費者の使用機会が極めて少ないと想定している商材のみを抜粋02.アスレジャー向け…FieldCore・Find-Out・AEGISブランド03.共通…上記以外の商材となり、靴下やTシャツなど



# ●チェーン全店売上高737億 56百万円

	チェーン全店	既存店
売上高	+8.0%	+1.7%
客数	+6.7%	+0.7%
1日平均客数	_	※ <b>163人</b> (+1人)
客単価	2 <b>,</b> 786円 (+1.3%)	2,779円 (+1.0%)
点単価	1,071円 (+26円)	1 <b>,06</b> 1円 (+24円)
買上点数	2.6点 (±0.0点)	2.6点 (±0.0点)

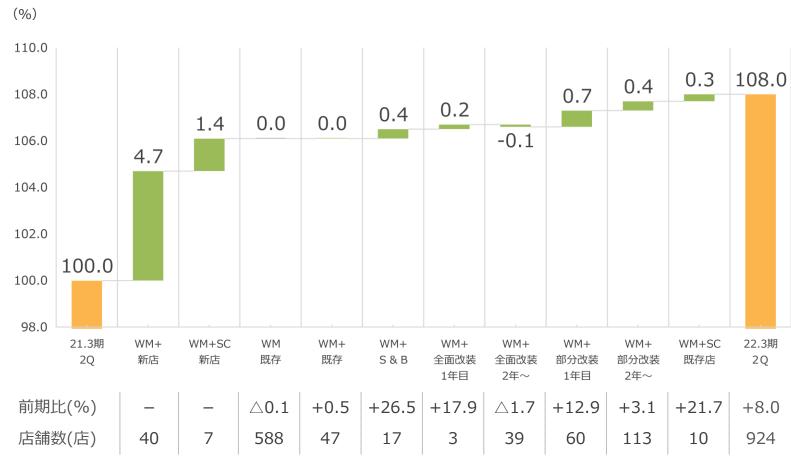
<sup>※1</sup>日平均客数は、運営形態により営業日数が異なる為、概数を記載しております。

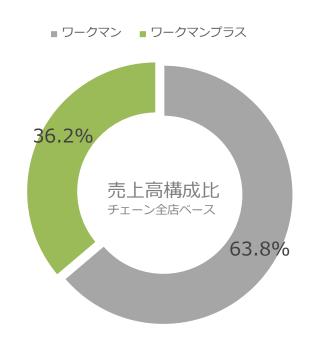


## 業態別売上の状況



### ●チェーン全店売上高寄与度 (月次ベース累計期間)





<sup>※</sup>既存店は新規開店及び改装リニューアルオープン月を除いて算出しております。

<sup>※「</sup>WM+既存」はワークマンプラス業態で新規出店した店舗が対象となります。

## 販売状況(商品別売上高と要因)



## ●チェーン全店商品別売上高

(単位:百万円)

カテゴリー	2021/3	2021/3期 <b>2Q</b>		期 2Q	要因(前年同期比)
	売上高	前年同期比	売上高	前年同期比	女 四 (制于问题记)
インナー・ソックス 肌着・靴下・帽子・タオル等	6,240	+28.4	6,791	+8.8	・ショートソックス(+11.3%) ・防暑小物(+7.8%)
<b>カジュアル・スポーツウエア</b> スポーツウエア・ポロシャツ等	9,824	+24.2	11,088	+12.9	・半袖Tシャツ(+14.1%) ・長袖Tシャツ(+24.8%) ・長袖コンプレッション(+12.4%)
<b>ワーク・アウトドアウエア</b> 作業服・アウトドアウエア等	21,980	+22.6	22,999	+4.6	・空調ウエア(+9.5%) ・ストレッチワークウエア(+46.9%) ・ジョガーパンツ(+40.9%)
<b>レディース・ユニフォーム</b> 女性衣料・白衣・オフィス等	2,961	+59.5	3,822	+29.1	・サマー女性衣料(+30.8%) ・女性用レインウエア(+42.7%)
<b>フットギア</b> 安全靴・足袋・長靴・厨房靴等	10,413	+16.1	11,491	+10.4	・セーフティシューズ(+7.1%) ・アスレシューズ(+19.0%)
作業用品・レインウエア 軍手・保護具・レインスーツ等	16,708	+22.1	17,516	+4.8	・アウトドアギア(+625.6%) ・レインウエア(+6.2%)
その他	160	+22.3	47	<b>△70.4</b>	_
合 計	68,288	+23.4	73,756	+8.0	

## 販売状況(商品別売上高と要因)

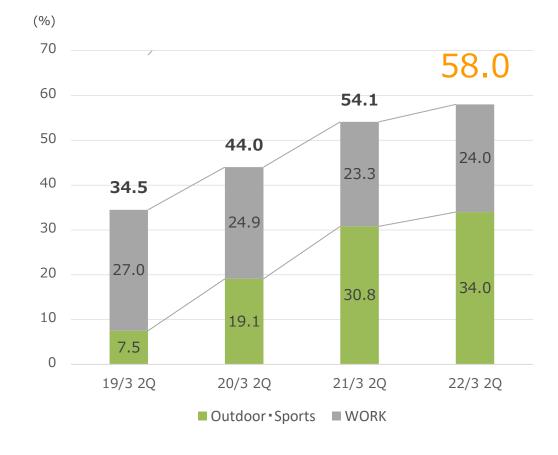


# ● P B 商品売上高 427億54百万円 (前年同期比+16.0%)

#### WORK & Outdoor • Sports

(単位:百万円)	アイテム数(前期)	販売金額 (前年同期比)
ワーク&アウトドア	429 (343)	14,350 (+24.1)
Find-Out ワーク&スポーツ	284 (316)	7,631 ( +9.6)
高機能レインウェア	84 ( 94)	3,066 (+25.4)
アスレジャーPB合計	797 (753)	25,048 (+19.4)
• WORK		
wmb ワークマンベスト	414 (485)	14,272 (+13.1)
<b>ASSIST</b> アシスト	99 (160)	3,433 ( +5.4)
ワーキングPB合計	513 (645)	17,705 (+11.5)
P B合計	1,310 (1,398)	42,754 (+16.0)

#### ● PB比率の推移(チェーン全店売上比)



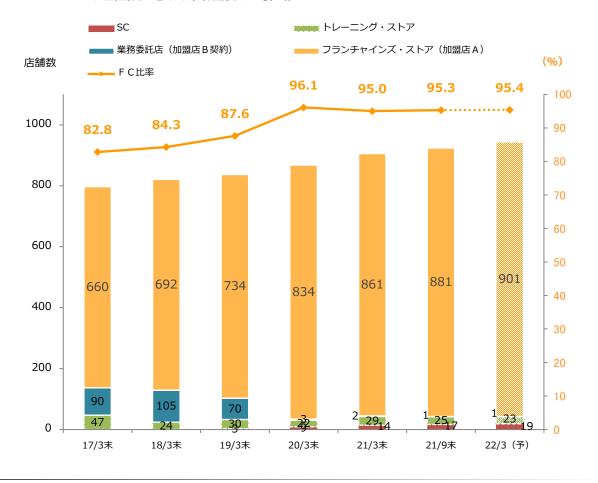


# ● フランチャイズ比率 95.3% (前期末比+0.3ポイント)

●2022/3期 2Q 運営形態の推移

形態	前期末	増加	減少	2022/3期 2Q
フランチャイズ ・ストア	861	45	25	881
業務委託店	2	_	1	1
トレーニング ・ストア	29	18	22	25
SC店舗	14	3	_	17

#### ●運営形態別店舗数の推移

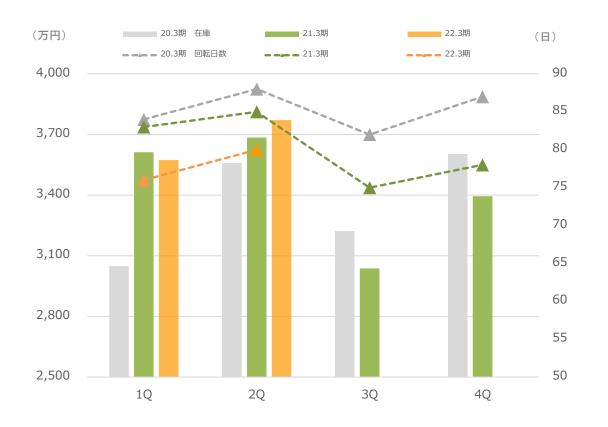


## 在庫(物流コスト)

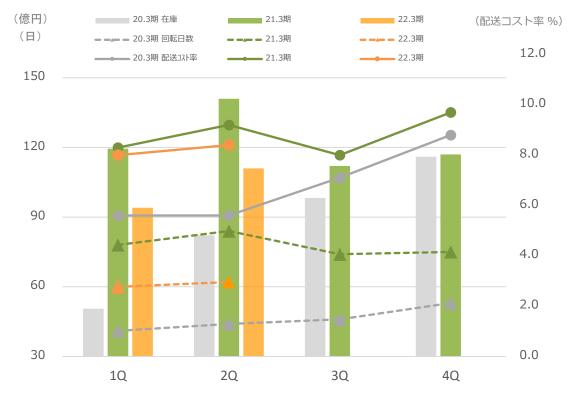


### ●秋冬商戦に備え店舗へ早期導入、DC在庫・配送コストの抑制

- ●1店舗当り売価在庫
- ・春夏商品キャリーの増加 1店舗460万円(前2Q 360万円)
- ・加盟店から秋冬商品の引き合いが増加



- ●DC在庫・配送コスト率
- ・配送コストは依然として高水準、DC増築で物流の効率化を 図り削減を目指す



# ご説明内容



●2022年3月期計画

## 2022年3月期計画



#### 新業態・新フォーマットの確立

- ・#ワークマン女子のロードサイド出店を加速
- ・商業集積地、駅前立地へ出店(空白立地)
- ・スクラップ&ビルドの推進
- ・130坪・150坪店舗の標準化

出店政策

#### 物流政策

伊勢崎流通センター増築

### 「声のする方に、進化する」

客層拡大 お客様満足度の向上

商品政策

販売政策

# 顧客利便性向上・オペレーション改善

- ・#ワークマン女子のFC化
- ・PRとMDの連動強化で売上の最大化
- ・新需要予測発注システムへ移行
- ・C&C通販の推進でネットとリアルの融合

#### 『驚き』のある製品開発

- ・アンバサダーとの製品開発で新機能・新カテゴリーに挑戦
- ・プロ向け商品の再構築、価格・機能・デザイン強化
- ・生産管理体制の強化・4シーズン制推進で在庫の適正化



# ● 3つの業態で国内1,500店舗体制を目指す

	(出任:庄紫) 前期末		22.3月期 出店予定		22.3期 改装予定※2				22.3末	中長期	
(単位:店数)	店舗数		ロード サイド	SC*3	S&B*3		全面 改装	部分改装	閉店	店舗数	目標
WORKMAN	632	(△13)	_	-	(△13)	(△59)	(△2)	(△57)	△2	558	200
WORKMAN Plus	272	43	30	_	13	<b>59</b> (-)	2 (-)	57 (-)	_	374	900
#ワークマン女子 WORKMAN GIRL	2	10	5	5	_	_	_	_	_	12	400
合計*1	906	53	35	5	13	59	2	57	△2	944	1,500

現時点での計画となり変更になることがございます。

下段は過去にワークマンプラス改装を実施した店舗が、当期にS&Bを行った店舗数を表示しております。

※3.SC:ショッピングセンター S&B:スクラップ&ビルド

<sup>※1.</sup>合計欄は実施店数を記載しており()表示は合計算出から除外しております。

<sup>※2.</sup>改装はワークマンからワークマンプラスへの転換となります。

## シーズン新商品AI販売予想



●新商品の早期欠品を改善 新商品の販売予測システムを内製化し機会口スの軽減を図る

●取組み概要

### 販売計画策定

各部と調整を行いオーダーへ

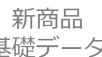


SV定性データ、製品特性か らXGboost、重回帰モデルに よる複数アルゴリズムで販売 数を予測



(Python)

販売数に関連性が高い設問を AIが作成



基礎データ





### LINE WORKS

アンケート機能を使って SV定性データを取得

SV 30名が商品を見ながら、

- 機能性
- ・デザイン性
- ・自身で購入したか
- ・市場でヒットするか などに直感で回答

=市場マーケティング

## 2021AW新製品発表会



- ●過酷ファッションショー
  - ・テーマは「水と火」 例年より過酷さを増した演出で機能性をアピール
  - ・テントなどアウトドアギアの展示(2022年2月展開予定)



TV・雑誌、新聞・Web媒体 50社 アンバサダー 11名 来場





## ●実験と検証を継続し、ロードサイド一般向け店舗を軌道に乗せる

●ロードサイド2号店 盛岡南店(150坪タイプ)オープン



●下期出店計画

10月	アルカキット錦糸町店
11月	前橋吉岡店(カインズモール)
	水戸元吉田店(カインズモール)
	長岡川崎店(リップスガーデン)
3月	ショッピングセンター店舗(契約中)

#### 今後の課題

### **01.** 事業の安定性

⇒長期検証が必要

### **02.** 近隣店舗への影響

⇒現在は相乗効果で売上が高まる傾向 出店エリアを広げ地域性ごとの検証が必要

### **03.** 店舗オペレーションの標準化

⇒品揃え・売場展開など一般需要への対応 誰でも出来る仕組みづくり(FC化向けて)

## 需要予測発注システム



## ●多店舗での検証をスタート

	ステム開発 スタート	パイロット店舗で検証	多店舗展開施 約100년		日システム全店和 470店舗	多行	全店	
2	2020.3	2021.2	2021.1	0	2021.12末		<b>杉(国)</b>	
▶ 導入目	目的			▶ 目標	旧シス	ステムとの比較		
01.	各業態の売 <sub>-</sub> 売上を高める発注			売上高		+ 2 %		
02.	<b>店舗在庫の</b> 売上に応じた在庫			在庫金額		100万円		
03.	<b>03.</b> 店舗発注業務の軽減 全店ベース業務改善(現行上限500店舗)			欠品率		△0.1~△0.2%		
				在庫水準を維持しながら、適正化を図り 改善と売上伸長を見込む。			率の	



●物流インフラ再構築 伊勢崎流通センター増築(群馬県)

#### ●取得詳細

総投資	3,317百万円		
減価償却費(年間)	153百万円		
販管費(22.3期) イニシャルコスト	110百万円		
延床面積(構造)	<b>6,670</b> 坪 (3階建て)		
コスト削減(年間)※	約265百万円		

●エレベータ) 增築棟 Programme Committee ●エレベータ) 既存棟 ○ 在庫保管・ピッキングエリア

※コスト削減純額(年間) コスト削減265百万円 – 減価償却費153百万円 = 約112百万円

西日本流通センター(岡山県)を建築予定 (2026年竣工予定)





上場維持基準への適合状況に関する一次判定結果を受領し、

# 「スタンダード市場」を選択

●スタンダード上場基準の概要

	株主数	流通株式数	流通株式比率	流通株式 時価総額	コーポレート・ ガバナンス
上場維持基準	400人以上	2,000単元以上	25%以上	10億円以上	全原則適用
当社の状況	0	0	0	0	0

すべての上場維持基準に「適合」しており、選択申請に係る手続きを進めます。

## 2022年3月期計画



## ●純利益ベースで11期連続の過去最高益達成を目指す (期初計画から変更なし)



チェーン全店売上高

156,174百万円 前期比+6.5%

#### 営業総収入

114,445 百万円 前期比+7.0%

#### 営業利益

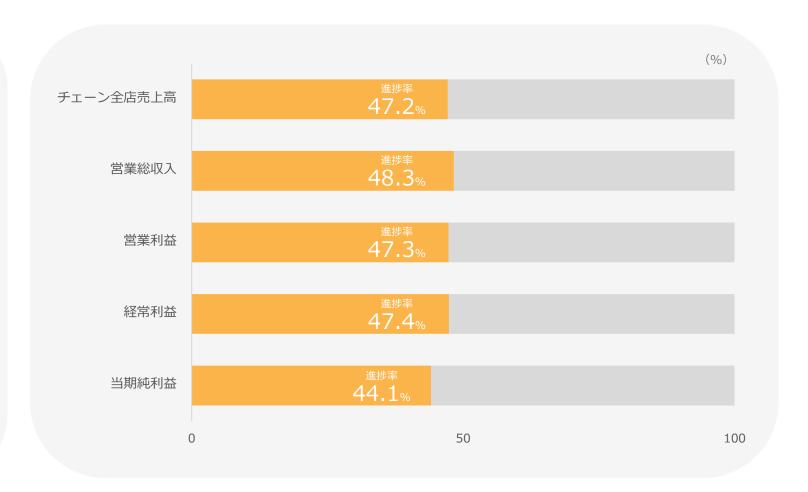
26,673百万円 前期比+7.8%

#### 経常利益

27,200百万円 前期比+7.0%

#### 当期純利益

18,155百万円 前期比+6.5%



※業績予想は収益認識に関する会計基準を適用した後の金額であり、前期比については、当該会計基準を適用したと仮定して算出しております。







- ■本資料は弊社をご理解いただくために作成したもので、弊社への投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、投資家の皆様ご自身の判断で行われるようお願い致します。
- ■本資料は正確性を期すために慎重に作成しておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、弊社は一切責任を負うものではありませんのでご了承下さい。
- ■本資料中の業績予想及び事業計画等の将来の見通しは、作成時点で入手可能な情報から作成しておりますが、事業環境が大きく変動することも考えられることから、実際の業績が見通しと大きく異なる可能性があることをご了承下さい。

株式会社ワークマン

銘柄コード:7564 (JASDAQ)

お問い合わせ先:財務部IRグループ

TEL: 03-3847-8190

E-mail: wm\_seibi@workman.co.jp https://www.workman.co.jp/